

工事名:上飯野新町三丁目地区配水管布設替(その2)工事

[改良87]

	質問	回答
1	・発注者からの事前の工事説明・説明会等は当該所轄警察・周辺工場/業者・地域住民には十分に行われているでしょうか。	地域住民への説明は、受注者が決まり次第、町内会長を通じて文書等で周知することとしております。
2	・設計断面に砂質土、と明記されておりますが、これは土質調査をして間違いなくこの土質であると確認済みの記載と考えてよろしいでしょうか。現地の土質に相違がある場合、受け入れ先の受入金額が大きく変動しますが、その場合は設計変更・増額にて確実に対応していただけますでしょうか。	過年度に本地区で施工した実績から、本工事においても砂質土と想定しておりますが、現場条件に変化が生じた場合は受注者と協議します。
3	・設計書において公共残土受入箇所が記載されておりますが、記載されている建設発生土受入箇所は隣接工事含む本工事の発生土量すべての受入を間違いなく無条件で可能との返事を受けての選定でしょうか。また相手先より受入不可能・条件付き受入などがあった場合の受入業者の再選定、及びそれにかかる費用は設計変更・増額にて確実に対応していただけますでしょうか。	建設発生土の搬出先は、富山県土木工事標準積算基準書に基づき、一番安価となる場所を選定しております。なお、受け入れ先の理由により、設計時の選定場所へ建設発生土を搬出できない場合は受注者と協議します。
4	・保安要員が2名と記載されておりますが、現在保安要員の確保が極めて困難な状況にあります。安全を確保した上で、仮設信号機などでの代替は可能でしょうか。また通行止めなどの工事に必要な道路規制について、事前に町内会などに通行止めは行わないなどの不要な口約束などしてありませんでしょうか。	まずは保安要員の確保に努めてください。なお、交通管理につきましては、受注者が作成する施工計画に基づき、発注者、受注者及び関係機関で協議します。また、交通規制について、地元町内会と事前に約束している事項はありません。
5	・現在週40時間労働制が厚生労働省・労働基準監督署でも推奨されておりますが、工期・施工期間の設定はそれを元に算定されていると考えてよろしいでしょうか。また以前水道事業実務必携に基づき工期の設定をしている、とご返答いただきましたが、「具体的に何ページの基準・数値に基づき算出」しておられますかページ数の提示・数値の明示でのご返答をお願いいたします。	工期については、水道事業実務必携の第2部 水道施設整備に係る歩掛表、第一編 請負工事標準歩掛を使用し算定しております。
6	・現在記載されている開札日・契約想定日～完成日までに施工実施日数は天候を一切考慮せずにおいても約50日間ですが、本工事の土工のみで66日ほどと試算します。現状、近年の発注量の減少から複数の施工班を抱える業者は皆無であると考えますが、どのような施工量・施工班を想定してこの工期の算定をなされているのでしょうか。具体的な施工試算根拠の提示を別紙でもかまいませんので詳細をお願いいたします。	標準的な1班体制で考えております。工期の算定については、質問5の回答のとおりです。
7	・本来調査・準備工として3週間、土工終了後書類作成日数として2週間は必須であると考えますが、それらの絶対必要日数について十分に考慮されておりますでしょうか。	工期については、準備期間及び後片付期間を考慮して算定しております。
8	・冬期の施工になりますが、降雪時の雪の排雪場所はどのように想定されているでしょうか。降雪時の施工量の減少へは工期の変更によって、また排雪にかかる費用などは費用の計上、増額によって対応していただけますでしょうか。	降雪時の排雪については想定しておりません。なお、質問5の回答のとおり、工期については作業不可能日を考慮して算定しております。また、本地区には消雪装置があるため、排雪にかかる費用は発生しないと考えております。

	質問	回答
9	・現地・上飯野新町三丁目は地下水量が非常に多い場所ですが、水替工等が計上されておりませんが、実際に湧水多量であった場合、工種の追加・増額での対応、また工期の変更によって対応していただけますでしょうか。	本地区は地下水量が多い場所ですが、冬期の施工であることや掘削深度が1m程度であることから水替工は不要であると考えておりますが、現場状況に変化が生じた場合は受注者と協議します。
10	・現場・上飯野新町三丁目は地下水量が非常に多い場所ですが、そのような場所で水に極めて弱いEF施工であるポリエチレン管を選定した技術的な根拠を提示してください。	重量が軽く施工性が良いこと、ダクタイル管より安価なことなどから、本地区においてはポリエチレン管を採用しております。
11	・またポリエチレン管は東日本震災被災地でメーカー説明と異なり、継手やフランジ等で破断しており、復興事業に一切使用されないなど耐震管としての性能に高い疑問符が付きますが、それらを採用する技術的な意図をご説明下さい。またその耐震性能が不十分である証拠の災害地におけるポリエチレン管の破断した写真のご提供も致しますので、お疑いあらば連絡ください。	地震の規模や管路の重要度に応じて管路が備えるべき耐震性能は異なりますが、日本水道協会において、ポリエチレン管には耐震適合性があると認定されております。
12	・工期について 工期が3月18日となっておりますが、年度を越えて5月末日もしくはそれ以上の工期延期は可能でしょうか？	工期については、準備日数、後片付日数、休日や気象による作業不可能日を含めて算定しておりますが、不測の事態により工事の進捗に影響が出た場合は、受注者と協議します。